

+++++
I. Dr.パンドウイト紙上セミナー「LAN配線のグチャグチャや管理不能状態に陥らないために」
第1回 責任分界点を決める
+++++

皆様のデータセンターやサーバールームのLAN配線はきれいに整理された状態で維持できているでしょうか。私もこれまで数多くの現場を見てきましたが、きれいな状態にできているサイトはごくわずか、その多くはお世辞にもきれいとは言えない状態です。管理する立場の方に話を伺うと、ほとんどの方が問題意識を持ってはいますが、「どんな手を打ったらよいかかわからない」、というのが正直なところのようです。

そこで『紙上セミナー』の第1弾として、LAN配線がグチャグチャになって管理不能状態に陥らないための方法について考察していきたいと思えます。

1. 意識すべき基本的なポイント

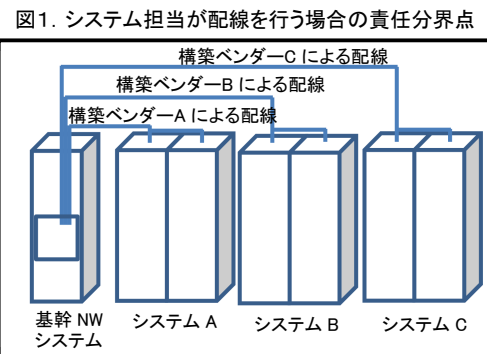
LAN配線を運用しやすいきれいな状態に保つために意識すべきもっとも基本的なポイントは、「責任分界点をいかに明確に、管理しやすく設定できるか」です。配線を整理するためのテクニックや、道具をどう使うかよりも、この基本ができているかどうかできれいに維持ができるかどうかが決まるといっても過言ではありません。

2. 責任分界点とは

LAN配線における「責任分界点」とは何でしょうか。それは仕事の「役割」と「役割」の接点の部分のことを言います。たとえば、「ネットワーク担当」と「サーバー担当」とで役割がわかれているとしたら、その接点はネットワーク機器のポート、もしくはサーバーのポートということになります。この場合、決してネットワーク機器とサーバーをつなぐ「ケーブル」ではなく、あくまでもポートが接点になり、ネットワーク担当がサーバーへのつなぎをする場合はサーバーのポート、サーバー担当がネットワーク機器へのつなぎをする場合はネットワーク機器のポートが責任分界点になります。

3. 責任分界点の例

具体的な例を挙げてみましょう。図1はシステム担当が配線を行う場合です。

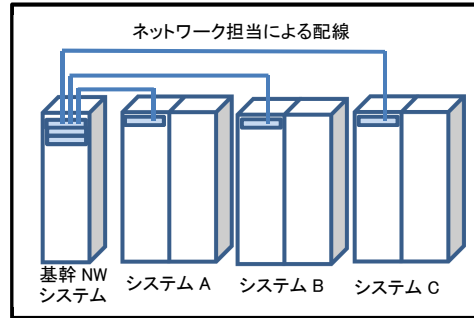


このケースでは、基幹ネットワークラックのネットワークポートが責任分界点になります。このような場合では、急なスケジュールや構成の変

更などへの対応など柔軟性がある反面、システムを設置、施工をするベンダーや責任者が異なったりすると、ネットワークラック内や床下のケーブルがグチャグチャになってしまうことが良くあります。

図2はネットワーク担当がサーバールックの上部に設けたパッチパネルまでの配線を行う場合です。

図2. ネットワーク担当がサーバールックまでの配線を行う場合の責任分界点



こちらはサーバールックの上部にパッチパネルが設置され、そのパッチパネルのポートが責任分界点になっています。この場合ではネットワークラック内や床下の配線はネットワーク担当の責任で行われ、比較的整理された状態を維持しやすくなりますが、サーバールックにパッチパネルを設置するスペースをとったり、システム導入前に先行して配線するためコストが前倒しかかかってしまったりというデメリットがあります。

4. 責任分界点設定の判断基準

図1と図2の例で見たように、それぞれ一長一短がありますが、どのような判断基準で責任分界点を設定すればよいのでしょうか。それは「運用上、どのような要件を重視するか」によって判断していくこととなります。図1、図2の例で再度考えてみたいと思います。

図1の考え方が当てはまる要件

- システムのライフサイクルは比較的短期間(2~3年程度?)
- 設置後増設や構成変更はほとんど発生しない
- ネットワーク障害が及ぼすインパクトは比較的軽微
- ネットワークの品質よりも、あくまでもコスト優先

図2の考え方が当てはまる要件

- システムの増設、変更が比較的多い
- データ量の増加などネットワークの将来的な強化を考慮する必要がある
- ネットワーク障害のインパクトが大きく復旧の即応性が求められる
- 投資したネットワークの品質を長年にわたって維持する必要がある

どちらかに必ず当てはまる、ということはないですし、また一企業の中でもオフィス、店舗、工場、サーバールームなど環境によって事情が異

なると思いますが、上記のように、どのような要件を優先するかによって責任分界点を設定することが重要です。

配線をきれいな状態で維持、管理、運用していくためには、上記のような責任分界点の設定を行う必要があります。また合わせて、関わる担当者の作業範囲、作業内容と作業を行う責任者の明確化を行う必要があります。次回の紙上セミナーでは関係する担当者の責任について考察します。

(次回につづく)

+++++
II. LAN配線お役立ち製品トピックス
『細径パッチコード』
+++++

当社の営業がお客様に紹介して非常に評判が良かった製品をご紹介します。今回は細径パッチコードです。



細径パッチコードの特長

- 通常のパッチコードと比較して径が 1/2 以下(当社比)のため、ボリュームの多い配線でも省スペースで邪魔にならない
- 柔らかく、曲げ半径が小さくいため、配線作業や変更作業が容易で管理性が向上

細いからと言って、性能特性に妥協はしておりません。もちろん両端に定番 Panduit 製「への字」ラッチタイプのコネクタ付きで、信頼性も抜群です。カテゴリ5e、カテゴリ6の2タイプがあります。一度試せば、お気に入り間違いなしです。

+++++
III. ショールーム(CBC)のご案内
+++++

当社ではデータセンター・サーバールーム、オフィス、工場におけるLAN配線のベストプラクティスをご覧いただけるショールーム「CBC(カスタマーブリーフィングセンター)」を開設しています。見学をご希望の方は以下のアドレス宛にメールでご一報ください。

JPN-CBC-Admin@panduit.com